

# 審判研修 道外派遣参加報告書

第44回全国ミニバスケットボール大会	期間 25年3月27日(水)～ 3月30日(土)
開催地 東京都渋谷区	会場 代々木第1・第2体育館
参加者 岩崎晋也	所属地区名 札幌地区
講師 中山泰夫氏 吉田正治氏 田中光夫氏 小坂井郁子氏	
審判会議、講師からの事前のレクチャー内容など ・厳しい予選を勝ち抜いてきている子どもたちの純粋な心にこたえましょう。 ・研修ゲームに参加し、研鑽してほしい。 ・最終日に残る審査も兼ねられているので、頑張してほしい。 ・友情、ほほえみ、フェアプレーができ、正しい方向性を示すプレーをさせてほしい。 ・審判も日頃の成果を出し、楽しみましょう。 ・規範となるよう、行動面に気をつけましょう。	
実技研修、座学研修等の記録 〈研修ゲームより〉 富山vs山口(女子) 主審 佐原氏(静岡) 副審 稲垣氏(神奈川) 講師 小坂井氏(日本協会) ・協力が不十分なところがあり、プレイが二人の審判から遠い位置で行われているケースがあった。どちらの審判がどのプレイを見るのかははっきりさせる必要があった。互いに譲り合わず、どちらかが積極的にプレイを見に行くことも大切である。 ・1対1の見方はよくできているが、カバーに対する見方が弱い。手の使い方は見ているが、体の寄せがどこまでよいのか示し切れていない。 千葉vs熊本(男子) 主審 七種氏(徳島) 副審 渡辺氏(京都) 講師 吉田氏(日本協会) ・ボックスワンについては、絶対に視野から外してはいけない。一度ディフェンスを追って見に行く。オフェンスが動く瞬間に手をかけるのでその瞬間に判定すればよい。 ・リードでエリア3から5への帯状の危険なエリアを見に行くためには、右側へ行く必要がある。マンツーマンディフェンスでエリア3からのドライブで外に広がりすぎていると対応が遅くなってしまうので、最初の位置取りをできるだけディフェンスライン上に置くとよい。 ・どのカテゴリーでもゴール下の最終決着場面をしっかり判定することが大切である。 愛知vs富山(男子) 主審 山形氏(青森) 副審 比嘉氏(沖縄) 講師 田中氏(日本協会) ・二人と選手が遠い場面があった。例えばルーズボールが起こった場合はしっかり見に行き確認すること。 ・自分から始まる、自分に向かってくるプレイに対して常に反応ができるように備えることが大切である。準備→反応→判断→判定をするために4原則を駆使しなければならない。 秋田vs愛知(女子) 主審 小林氏(新潟) 副審 神田氏(鳥取) 講師 中山氏(日本協会) ・プレイの中身をもっとよく見てもらいたかった。例えば、体を寄せてからカットしたりヘルドボールになったりしているものについてはファウルとして取り上げた方がよかった。 ・トレイルが傍観していることが多い。例えばリバウンドを取ろうとするプレイヤーの状況を見ながら、ブラインドを作らないように常によりポジションへ動いてもらいたい。 〈総括〉 ・表示されているものにどれだけ気を遣っているか。30秒がルーズボールでリセットされてしまったり、成立しているのに誰も気が付いていないケースがあった。30秒が継続になっていく計画がある中で、表示関係特に30秒への意識がもっと必要である。他カテゴリーではなおさらのことである。 ・責任の所在と影響の確認をすること。オフェンスが寄せて行っているのに、ディフェンスのファウルになってしまっているケースがある。 ・2人の協力がもっと必要。10人を二人で見る意識を持とう。プレスディフェンスへの対応、面が変わるところ、リードが右へポジションを取っている場合のトレイルの位置取りなど。 ・ミニバスにはベンチラインはないが、ベンチ管理をどうしていくか。声をかけて意識させる。	

実践実技1	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
25年3月28日 (木)	対戦カード 女子 新潟vs神奈川
副審 岩崎 晋也	相手審判 谷氏(高知)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のエリアを担当すること。</li> <li>・3、4番の引継ぎを確実にすること</li> <li>・リバウンド時のトレイルがダウンしての判定</li> <li>・プレスディフェンスへの対応</li> </ul>	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 田中光夫氏(日本協会講師)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹いて満足してはいけない。</li> <li>・二人とも吹けるペアだから、こういうときこそ、自分のエリアを担当したり、ポジションにこだわってみてはどうか。</li> </ul>	
ゲーム感想	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・手を使った守り方とスクリーンアウトが目立ったので整理していった。中にはプレイが続けられるもの(特にリバウンド後)があったので、これからそういう判定をそぎ落としていきたい。</li> </ul>	
実践実技2	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
25年3月29日 (金)	対戦カード 男子 和歌山vs石川
副審 岩崎 晋也	相手審判 小谷(高知)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・大きいプレイヤー同士の攻防がポイントになる。</li> <li>・エリア3から4の引き継ぎをはっきり行う。</li> <li>・プレスの対応で、二人が離れすぎないようにする。</li> </ul>	
ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 吉田正治氏(日本協会講師)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・時折プレイヤーへ声をかけているのがよかった。</li> <li>・ヴァイオレーションをもう少し整理してほしかった。</li> <li>・攻守の切り替わりで影響のある触れ合いがあったので、早くリードに入らずに協力があればよかった。トレイルの入りも早くすればよい。</li> <li>・悪い手の使い方と後ろからの触れ合いは影響にかかわらず整理していかななくてはならない。流してはいけない。</li> </ul>	
ゲーム感想	
<p>自分の課題として、一日目の主任と主審から吹き過ぎではないかという指摘があったので、ファウルについては影響までじっくり見てみようかとゲームに臨んだ。しかし、悪い手の使い方については、どんなに抜けていても、チームファウルや、フラストレーションがたまることを考慮して吹き上げるべきだという吉田日本協会講師から講評をいただいた。やはり、規準を示すためには、これはダメだという自分の信念を持って吹くべきであった。しかし、これにより迷いはなくなり、自分が思っているものを吹けば間違いではないという答えが出た。最終日は思い切り吹くことができるだろう。</p>	
実践実技3	
日付け 対戦カード 相手審判 ゲーム前のカンファレンス内容など	
25年3月30日 (土)	対戦カード 埼玉vs石川 男子Cブロック決勝
副審 岩崎 晋也	相手審判 日比(東海ブロック長)
ゲーム前のカンファレンス内容	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のエリアを担当すること。3、4番の引き継ぎを確実にしたい。4番、1番の一人で判定しなければいけないところは責任を持つこと。</li> <li>・大きいプレイヤー同士の攻防について、埼玉の方は大きいプレイヤーが攻撃的だが、石川は消極的で相反するプレイヤーを丁寧に判定していきたい。</li> <li>・ゲーム中にすり合わせをしていきたい。</li> </ul>	

ゲーム後、講師(主任)からのアドバイス 島田氏(日本協会ミニバス担当レフェリー)

・決勝が2回目ということもあり、去年よりは余裕を持って臨めたと思う。色々考えているなど思わせる動きや判定があった。

・プレーに合わせた動きが必要である。ゆっくり落ち着いて見ているのも持ち味なのかもしれないが、早く見に行っていかなければいけないところをもっと感じる事。

#### ゲーム感想

両チームとも大きいプレイヤーがいるので、そこがポイントとなった。日比さんとディフェンスの手を使った守り方について整理していった。ただ、オフボールでの肘を使ったとするオフェンスファウルをリードの私のエリアを吹かれてしまった。私はそこまでの触れ合いではなく、むしろディフェンス側のシミュレーション気味と判定した。講評で島田さんも同じ解釈をしていたので安堵した。ただ、それに至るまでの相手審判を意識した位置取りや、判定の面で日比さんに何らかの心配をかけていたのかもしれない。誰が見ても安心してワンゲームを任せられるような振る舞いが必要であった。

#### まとめ

今回の目標であった決勝戦に残ることはできた。ただ、余計な笛を吹いたり、ゆったりし過ぎていたり、日頃言われていることが出てしまう結果となってしまった。日頃からの意識やトレーニングはとても大切だと感じました。上級を目指すうえでいつも言われている「基準作り」という面では、「こだわりをもっていることが感じられた」という講評もいただき、危機感を持って取り組んでいることに一定の成果があった。

今年度もこのような貴重な場を与えてくださった道ミニ連や谷審判委員長、ならびに現地で励ましの言葉をかけてくださった小林理事長や四反田全国理事に感謝申し上げます。ありがとうございました。